

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570201063		
法人名	有限会社 ケアハウスぬくもりの里		
事業所名	グループホームぬくもりの里	ユニット名	南棟
所在地	宮崎県都城市五十町2394-5		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570201063-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570201063-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年11月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

○行事やイベント ○小・中・高校が近くにあり、交流やつながりを大切にしている。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、利用者これまでの家族との絆を大切にすることを支援している。家族との外食を兼ねた外出を利用者は大変楽しみにされている。利用者の身内の結婚式や葬式にもわずかな時間ではあるが、職員が同行して、家族と喜びや悲しみを共有してもらって配慮をしている。また、地域の祭りでは、子供みこしの来訪を受け、利用者は思い思いにさい銭箱におさい銭を差し入れることを楽しみにしている。3月のひな祭りには、利用者が近隣の家に招待され、楽しいひと時を過ごすなど、利用者が地域社会とつながりながら、当たり前前の暮らしが続けられるよう、地域住民との交流に取り組んでいる。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	訴えを傾聴し、相手が何を要求しているのか、体調の変化に気づき、相手を否定せず共感する		利用者が、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスを提供するホーム独自の理念を作り上げている。職員は、利用者への言葉かけ、態度等、日々の生活のかかわりの中で、理念がケアに生かされているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		園内外散歩、挨拶	日常的に、散歩時にあいさつや会話を交わしている。地区公民館ボランティアや子供みこし、地区小学校の生徒の来訪がある。ひな祭りには、近隣の家から招待があり、利用者が訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭り参加 ボランティアの受け入れ			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		2ヶ月に一回、運営推進会議を行い、利用者の身体状況、活動状況の報告をする	会議では、ホームからの報告とともに、参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。夏には、すだれを持参していただき、暑さ対策についてのアドバイスをいただいた。会議録は、常時、玄関受付棚に置き、開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		運営推進会議を通じて取り組んでいる	市担当者は、運営推進会議メンバーでもあり、日ごろから協力関係ができています。介護保険などの専門的な相談事には、直接窓口に出向くなど、連携を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		勉強会を行っており、理解している 夜間は防犯の為、施錠している	代表者および職員は、身体拘束の内容とその弊害を認識している。地域住民の協力を得て、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、家族にもホームの取組を説明し、理解を得るよう努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		見守り重視 身体チェック等心がける		

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容は理解しているが、実際かかわりはない			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明には十分な時間を取り、利用者や家族の方に理解してもらい、契約を行っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族苦情箱の設置		家族の来訪時には、何でも気軽に話してもらえるよう、利用者の現状を報告し、家族の表情を見ながら声かけをするなど、雰囲気作り心掛けている。出された意見や要望は、申し送りノートに記録し、全職員の共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、意見や相談、提案がある場合には、直ちに運営者に意見を言えるようにしている。また、必要に応じて全員で話し合い、理解し、運営に役立たせている		職員は、月1回行われる職員会議や管理者に直接何でも言える場と雰囲気がある。運営者は、職員の資格取得にも力を入れ、手当を支給するなど、職員の前向きな努力に理解と協力がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に集中できるよう、時間や人員の配置には気を使っている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会への参加、内部での勉強会を行っている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会などを通じて、勉強会や問題点などについて、情報交換などを行っている			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の担当者会議の中で、グループホームに入所される意義を理解する			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態、家族関係、要望等を把握し、その人に合った統一のとれたケアを行うよう、スタッフ同士の意識づけをする			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	起立、歩行困難や転倒の危険性のみられる人には、福祉用具の利用があることを説明する			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の気持ちを汲み取った支援を行っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に家族を招待したり、体調については、その都度報告している			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、同級生が訪ねてこられたが、高齢になり来られない(〇氏)	職員は、利用者との会話に回想法をとり入れている。利用者のこれまでの友人、知人との思い出や地域の写真を見て話題にするなど、場や人をつなぐ取組を行っている。家族の協力を得て、行きつけの理・美容室や墓参りにも出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行動障害が見られる方のサインに早めに気づき、その人その場に合った対応をしている			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、相談があれば応じている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議の中で行っている		職員は、利用者の表情や仕草などから、思いや意向を把握している。難聴の人には、耳元で優しく声かけしたり、ジェスチャーで問いかけるなど、工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活された経緯を把握し、サービスの中に取り組んでいる			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の出来る事を生活の中でしてもらおう（掃除、洗濯たたみ等）			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の中で、職員やCMと意見交換し、本人の暮らしの中で生活援助している		介護計画は、担当者会議で本人、家族の要望をとり入れて、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、利用者主体の暮らしを反映した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に記入し、情報共有見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望があれば、いろいろな場面での支援や相談など、随時、支援している			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練を行い、避難場所として地区公民館を利用できる体制を整えている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの病院を24時間受診できる体制が整っている			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の看護師を配置し、いつでも状態をみている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態確認を行い、病状、状態の情報交換を行っている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族と、施設で、生活出来なくなった時の事を話し合っている		重度化や終末期に対する方針については、入居時にホームが対応し得る最大のケアについて説明を行っている。随時、本人、家族の意思を確認しながら、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中で勉強会を行っている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の職員が多くいる為、家族に協力が得られるようになっている			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の性格を把握し、その人に合った声掛け、対応を行っている		職員は、利用者を年長者として敬意を払い、援助が必要な時も、本人の気持ちを大切に考えて、さり気ないケアに心掛けるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の行動や訴えたい事に気づき、自己決定しやすい雰囲気作りを心がける			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールに合わせるのではなく、その人の状態、気分を配慮した快適な生活を目指す			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服選び、タンスの中の整理(衣替え等)支援をしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の出来る範囲で、下ごしらえ、後片付けなどを一緒にしている		食事は、旬の食材をとり入れ、各ユニットごとに利用者の好みを踏まえたメニューを工夫し、利用者と職員が同じ食卓を囲んで、同じものを楽しく食べている。「むかごご飯やから芋ねったぼ」など、昔なじみの食べ物もとり入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使い、一日の摂取量を見ても理解しやすいよう記入している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけのもと、自力で出来る方は側で見守り、出来ない方は全介助のもと施行(朝、昼、夕3回)			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの習慣を声かけて身につけさせ、排泄の自立を促している		トイレは引き戸を取り外し、カーテンに取り換えるなど、利用者が車いすでも楽に出入りできるように工夫している。利用者は、入居前に比べ、オムツの使用量が少なくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い副食や水分補給を心掛け、運動等もこまめに行っている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴拒否がある時は時間をずらしたり、日付を変えたりして、本人が気持ちよく入浴出来るような対応を行っている		入浴したい日は、いつでも入浴できるように配慮している。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて順番を変えるなど、本人の意向に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のある利用者には、昼間ゆっくり休めるような工夫をしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、バイタル測定し、記録している。服薬は、名前を確認し、飲み込むまで確認している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なじみの生活が継続できるよう、一人ひとりを理解し、穏やかな施設生活ができるよう支援している			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を希望される方には、園外散歩を行っている。施設の年間行事として、地域の祭りへの参加、花見、竹の子掘りなどを組み入れている		利用者の体調や気分に合わせて、敷地内での外気浴、近隣の散歩、小学生のマラソンの応援、季節の花見、竹の子掘りなどを行っている。また、家族の協力を得て、墓参りや外食を兼ねての外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、散歩がてら地域の商店で、菓子類のおやつを職員の介助の下、買っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙や電話があった場合、取り次ぎ、代読したり、代筆を行っている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、清掃に心掛け、掃除機がけ、トイレ掃除、床拭き、手すりふきを行っている。 季節に応じて、体温調節、冷暖房機具を使用している		玄関ホールや廊下、居間にはいすやソファを置き、季節の花が生けられている。暖かい日差しが入る量の間は、気の合った利用者同士がくつろげる場となっており、テレビの音量も適量に調整され、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる時は、ソファーに腰掛けられ、気の合った方々と座られ、会話を楽しまれる。 座られる位置も、本人が気分を害さない工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を、自宅より持ってきてもらい活用している		居室は、畳の間にベッドが置かれているが、ベッドより畳に寝る方が落ち着かれる方もいる。家族の写真や使い慣れた寝具、タンス、いす等が持ち込まれ、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の場所が理解できない人の為に、表札や目印など工夫をしている			